



2024年2月1日
(幼保連) 認定こども園さふらん

園だより

2月号



2月の聖句

人にしてもらいたいと思うことは何でも
あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章 12節

「こりす組に“てぶくろ”の劇見に来てください」とのお誘いがあり部屋には客席も用意され、手作りの大きなてぶくろをセットし動物のお面をつけ、先生のナレーションでスタート。選んだ役をしっかりと演じ、小さな声にもじっと聞き入るお客さん、大きな拍手をもらい大満足な子ども達でした。

4年ぶりに年長さんが教えての凧作りは、とてもほのぼのとした微笑ましい場面がいっぱいありました。「そうそう、上手じゃうず」「バツテン結びできる？」紐結びで苦戦する場面もありましたが、優しく教える年長さんは一回り大きくなったように感じました。年長さんはやり切った安堵感！年中さんは年長さんへの期待が一層膨らみました。その後、和やかな雰囲気の中で一緒にお弁当も食べてとても楽しい交流のひと時になりました。

こんな日常が繰り返されるようになったなあと友達関係の広がりや深まりがとても嬉しいです。

中学2年生による職場体験を受け入れて久しくなります。コロナ禍での中断がありましたが、今年度は11月に堺中学から2名、1月には鶴川第二中学から2名と忠生中学から1名の女子生徒を受け入れました。保護者の中にも体験なさった方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

鶴中のIさん、「小さい頃に楽しいこと、してはいけないことを優しく教えてくれた大切な場所であり、今私が一番学びを得られる場所だと考えています。子どもは少しの行動でも良くも悪くも影響してしまい、私の行動もそうではないかと考えたからです。なので、いつも責任感を持ち行動します。」

もう一人のSさんは「自分が昔、幼稚園で園児側としていた時とは違って先生の仕事を体験できることが楽しみです。朝から夕方まで楽しく過ごせるようにして頂いた先生側の視点を学びたい」と体験前に考え臨んだ3日間、日々感じたことを日誌に書き「・・・今回の体験で学んだ働く大人の大変さ大事さを忘れないで、感謝の気持ちを持つようにしたい。」「この体験は将来とても大事になると思いました。絶対今後活かしていきたい」幼稚園時代に体験したことをしっかり自分事として捉え、子ども達と触れ合い教師の仕事を理解しようと積極的に学ぶ姿勢はとてもさわやかでした。そんな中学生から未来への希望を見たようでとても頼もしく思いました。

今、飼育と放送のやり方を教えていますが、16日(金)に引継ぎ式を行い次週からは年中さんが交代で担当します。年長さんのお家の方、餌のご協力本当にありがとうございました。年中さんこれから宜しくお願いします。きっと張り切ってくれることでしょう。年少さんは新入園児のためにペンダントのプレゼントを作ります。きっと進級への思いが生まれることでしょう。



今月の聖書の箇所は黄金律（3世紀のローマ皇帝アレキサンダー・セヴェルスが金文字で自分の部屋に掲げたことが由来）と言われているイエスの大切なメッセージです。家庭でも社会でもこの言葉を実践することが平和につながると思うのです。

